

令和3年度 有馬小学校 外部評価報告書
評価委員：中野耕佑（委員長）、宮崎弘次（副委員長）、矢川春文委員、深山健太郎委員、中多宏之委員、坂野泰士委員、森功次委員、宇多清二委員、吉岡輝元委員、鈴木一也委員
報告書作成者：鈴木一也委員
評価時期 令和3年2月
<p>1 重点目標の評価</p> <p>【重点目標1について】</p> <ul style="list-style-type: none">研究発表会に参加して、本校の校内研究は、本校での長年の話し合いを中心とした取組が定着している。全学級が有馬スタイルで授業をしていて素晴らしい。基礎基本的な学力の定着は、繰り返し学習をするなど根気強く取り組む必要がある。補習教室などを通して児童の基礎基本の定着を図るために、保護者への理解を求めていくことが必要である。自分の考えを自分の言葉で伝えるということはこれからの世の中でますます大切になってくる。今まで取り組んできた特別活動ということができる。特別活動で学んだことを生かして勉強し続けてほしい。 <p>【重点目標2について】</p> <ul style="list-style-type: none">ICTの活用が活発であり、授業が変わった。教員がICTのスキルを身に付けるのが大変であると思う。差が出るのは仕方がない。今の子どもたちは社会に出ても使いこなせる技術を身に付けていくことになる。設備も充実している。オンライン学習等、工夫して実施していることがよく分かった。まだまだ工夫の余地がある。ノートをとらなくなると思考力が低下したり、ノートをまとめることができなくなったりする。また、思考の持続力がなくなっているというデータもある。タブレットを使うことの弊害についてもこれから考えていく必要がある。紙に書くという学習もしっかりと行ってほしい。タブレット端末をツールとして、上手に活用をしていく必要がある。 <p>【重点目標3について】</p> <ul style="list-style-type: none">コロナ禍で、児童同士でコミュニケーションがとりにくくなっている中で、ペア学習や、タブレットを活用した活動を工夫して取り入れていることが素晴らしい。マスクの生活が続いて、子ども同士感情を理解することが難しくなっている。今後の課題である。学校は、保護者同士のコミュニティーの場でもあるはずなのに今、なかなかそのような場になっていない。コロナ禍のPTA活動など今後工夫して行く必要がある。「有馬スタンダード」について、全教員が年間を通して、同じ基準で意識を高めていったことが今回の高達成率に繋がったと考えられる。来年度以降も引き続き、継続して行ってほしい。 <p>2 今後の改善に向けた意見</p> <ul style="list-style-type: none">引き続き、ICTを活用した授業の積極的な実践をしてほしい。重点目標の、アンケートの結果が低いものに対してどのように取り組んでいくかの検証も適切に実施していくことが大切である。学力調査の検証を元にさらなる学力の向上を図ってほしい。 <p>3 その他の意見</p> <ul style="list-style-type: none">教員の評価と保護者の評価を見比べることは、共通の課題意識が明確になるので、とてもよい。次年度への課題を共有することができる。コロナ禍ではあるが、地域の様々な行事があるので、学校のご協力をお願いしたい。

